

## 理事会だより

9月5日(木)15時から理事長の進行で通常理事会が行われ、冒頭、理事長から以下の言葉が述べられた。

「韓国軍や在郷軍人会などの交流行事で何度か韓国を訪問した。退官後に訪問した時、38度線を見た後、同行の韓国軍将官が漢江近くの山を指してエプロン山だという。秀吉の

軍に対抗するため、女性たちも前掛けに石を包んで登り立てこもった山なので、そう呼ばれているのだと説明してくれた。友好親善の訪問に際しても400年以上前のそんな話をごく普通にしてくる。日本人も韓国に無用の配慮をせず、自分の考えを正直に本音で話をすべき時代だと思う。それが日韓の将来のためになる」

第1号議案「塩田前副理事長お別れの会」について、山越事務局長から説明があった。塩田前副理事長は、偕行社を従前会員から元陸自会員に引き継ぐことに對し、大変大きな功績があった。お別れの会は、偕行社の主催で、日時は11月17日、場所は靖國會館偕行の間を予定している。参集範囲は故塩田氏のゆかりの方々で、なるべくは幅広くと考えている。経費を見積もっているが、偕行社の経費の他、参加者からの会費も徴収する。会の次第なども含め、ご遺族と調整しつつ会長の指導を受け、事務局で決めていくこととしたい。

第2号議案「天皇家陛下御即位奉祝事業に関する協賛について」に関し、事務局長から説明があった。

天皇家陛下御即位奉祝委員会が、「天皇家陛下御即位をお祝いする国民祭典」

を皇居前で、6万人を集めて開催する。これに際し、偕行社に寄付金と参列者招集についての協力依頼があった。偕行社から20万円の寄付と、1000名の参加希望者を募集することで協力したい。参加者には奉祝委員会役員関係団体招待席(A席)入場券を配布する。また、各会員に對し、本祭典への寄付も募りたい。会員からの寄付は偕行社で出費する金額に加算して奉祝委員会に寄付する。

第1号議案、第2号議案共に賛成多数で議決された。

報告事項として、まず偕行社将来検討について将来検討委員長白石理事から報告があった。平成28年から検討会を33回やっている。今年12月に検討会完成させ来年6月の理事会、評議会で承認して頂き、3年かけて事業を進め6年後に均衡予算にする。元々陸軍将校同窓会的組織だったが、公益財団となりその事業を行いつつ元陸自幹部のOB会という性格をも追及し、将来は陸自幹部出身者の全員入会を目指す。会員の範囲として普通会員はA会員、B会員があるがこれをA会員に統一する。「偕行」は毎号全員に配布するが、発行間隔については別に検討する。

慰霊・援護委員長吉橋理事より、令

和元年度市ヶ谷台慰霊祭実施計画について報告があった。祭式の時期は9月11日、市ヶ谷駐屯地メモリアルゾーンで行う。ご遺族、国会議員、防衛省関係者など1000余名が参加予定。直会は偕行社で行う予定である。

入会促進委員長小淵理事から、「北海道方面業務管理センターにおける偕行社説明の実態把握」について報告があった。8月1日北海道方面業務管理センターで北海道偕行会が「偕行社説明」として教育を実施し、小淵理事がその状況を現地を確認した。教育はいろいろ工夫していてよかったが、受講者25名のうち、偕行社を認識していたのは4名で、まだまだ認知度は低い。田浦総監への表敬、北海道偕行会員との意見交換など有意義な訪問であった。

厚生委員長小山田理事から、第14回「いざ歌わん哉」は、参加者55名で13名増加、一般の人が4名増え入会できることを伝えたとところ賛助会員となってくれた。

奥村専務理事から企業の法人会員の入会促進について報告があった。防衛装備工業会や、防衛産業関連企業の顧問などを通じて入会を勧誘している。